



【は】っけん・気付く

久遠

【ル】ートを考えつながる

【え】がおを創り出す



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」に寄せて 6月1日 朝礼 校長講話より一部抜粋

校長 友田 和

5月23日(土)に行われた体育祭。今年度は昨年までの「運動会」改め「体育祭」となりました。実行委員の皆さんを中心に、係活動、準備、当日の運営まで、本当に多くの人の力によってつくられました。競技や演技に一生懸命取り組む姿、仲間を応援する姿、係として自分の役割を果たす姿、最後までやり切ろうとする姿が、たくさん見られました。体育祭は、誰か一人の力だけで成功するものではありません。出場する人、支える人、応援する人、それぞれが自分にできることを精一杯行ったからこそ、春江中学校全体でつくり上げることができたのだと思います。(PTAをはじめとする保護者・地域の皆様、朝早くからのご協力、本当にありがとうございました。)

私は、この体育祭や先週行われた「グリーンプラン」「地域清掃ボランティア」などの活動を通して、皆さん一人一人には、それぞれ良い面があると改めて感じました。皆さんには、自分の中にある良さに気づき、自信をもってほしいと思います。そして、その良さを、これからの学校生活の中でもどんどん生かしてほしいです。

さて、今日から6月です。6月は「ふれあい月間」です。いじめを防ぎ、誰もが安心して生活できる学校について、改めて考える期間です。

今日は、その中でも「人権感覚」について話します。人権という言葉は、少し難しく聞こえるかもしれませんが、でも、簡単に言えば、自分も相手も、一人の大切な人として扱うことです。「相手の立場に立って考えること。」「自分がされて嫌なことは、相手にもしないこと。」その当たり前の感覚が、人権感覚です。

人はそれぞれ違います。見た目、肌の色、国籍、言葉、家庭の事情、得意なこと、苦手なこと、考え方、感じ方。同じ人は一人もいません。その違いを笑いやかからかいの材料にしたり、こそこそ話したり、相手を下に見るような言い方をしたりすることは、相手を大切にしていない行動です。すでに知っている人もいますが、「いじめ防止対策推進法」という法律があります。した側が「そんなつもりではなかった」と思っている、受けた側が心や体に苦痛を感じていれば、いじめとして捉える、というものです。

私は校長として、はっきり伝えます。春江中学校では、いじめを決して許しません。それぞれの違いや事情を笑いの材料にしたり、相手が嫌がることを続けたり、複数で一人を傷つけたりすることは、絶対に認めません。そのような言動があれば、学校として見過ごさず、必要な指導と対応を行います。

春江中生の皆さんには、「想像力」と「伝える力」を身につけてほしいと思います。自分の言葉や行動が、相手にどんな思いを残すのか、想像してください。自分の一言が、明日からのその人の学校生活にどんな影響を与えるだろうか。そこまで考える力が「想像力」です。そして、その「想像力」が、人権感覚につながります。そして、嫌なことや困ったことが起きた時には、自分の気持ちを相手に伝えることも大切です。これが「伝える力」です。それが難しいときは、先生や周りの大人に相談してください。

一人一人の心がけや思いやりが、安心して過ごせる学校生活につながります。そして春江中がもっといい学校になっていくと思います。皆さんのこれからの姿に期待しています。